

若手とベテランの融合チーム

3年ぶりの全国で勝利を目指す

岩手ブレイズラグー

Iwate Blaze Rugby

社会人
ラグビー
クラブ
チーム

10から40代まで幅広い年齢層を生かし、若手の勢いとベテランの卓越した技術で全国への切符を手にした岩手ブレイズラグー。チームにかける思いを取材した。



雨にも負けず熱の入った練習を行う選手たち。若手をサポートするベテランの声がグラウンドに響く



7月に釜石鶴住居復興スタジアムで行われた釜石シーウェイブス戦を終えた後の岩手ブレイズラグーファミリーの面々

岩手県ラグビー特集

勝利のメソッド
Iwate Rugby 2020

ギリギリの人数で遠征に行くことも少なくなかった。しかしここ数年で毎年新たなメンバーが入ってくるようになった。特に今年は高校を卒業したばかりの若手が一気に増えたこともあり、チームの活気は増している。

プレイングコーチを務める千葉大和氏（SH）は、チームの雰囲気について「ベテランと若手とのバランスが取れていて、とても良い状態」と語る。自身もコーチとして若手がプレーしやすい雰囲気づくりを心がけており、その成果が今季の試合結果にも表れているようだ。

またチーム結成当時から所属している主将の高橋和幸氏（FB）も「若手が入ってきたことでリザーブメンバーが充実し、チーム力を落とすことなく選手の交代ができるようになった」と笑顔を見せる。高校時代の先輩、後輩で所属している選手も多く、存続のための良いサイクルが出来上がっているという。

「ここまで来られたのも、応援してくださる企業や支えてくれる家族のおかげです」と語る高橋主将。選手たちは普段会社員として働き、毎週日曜日に集まって練習している。それ以外の日も盛岡、北上、沿岸と3つの地域に分かれて練習を行っているが、こうした活動ができるのも周囲の理解があってこそ。メンバー皆がこの環境に日々、感謝をしながら仲間とともにボールを追いかけている。

「今の課題はチーム全体の雰囲気や大切にしながらも、時に厳しいことを伝えてもっと上を目指すこと。それが自分たちを支えてくれる人たちへの恩返しになるし、岩手のラグビーを未来へとつなげることになっている」と語る。

新たな仲間を得て勢いを増す岩手ブレイズラグー。これからの活躍に期待が高まる。

チームのメインスポンサーは、ジャージの中央に社名ロゴマークを配した盛岡市を拠点に仙台、青森などにも展開している株式会社寿広。そのほか岩手県内はもちろん、関東地方にもチームの活動を支援してくれる企業がある。そうしたサポートがあつてこそ活動できると、藤原GMは会話の端々に感謝の念をにじませた。「社会人になっても本気でラグビーがプレーできる場所を、この岩手で存続させていきたい」。それは岩手ブレイズラグーが誕生するきっかけになった思いであり、チームの基盤となるものだ。

今年で11年目を迎えたが、その歴史を振り返ってみると、選手の確保が難しく出場

2008年、北上フォースと矢巾ノーサイドRFCが合併して誕生した岩手ブレイズラグー。県内強豪高や大学で活躍してきた選手たちの受け皿になっていた社会人ラグビークラブチームである。今年はクラブ選手権大会東北代表決定戦で優勝し、3年ぶりに全国クラブラグビーフットボール大会への出場を決めた。1月には埼玉で行われる本戦で、まずは1勝を目標に練習を重ねている。しかし「全国初戦の壁は高く厳しい」と、ジェネラルマネージャーの藤原護氏は語る。